

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 11 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530568

研究課題名（和文） 社会関係資本としての葬儀に関する比較社会研究

研究課題名（英文） Comparative Study on Funeral Services as a Social Capital

研究代表者

嶋根 克己（SHIMANE KATSUMI）

専修大学・人間科学部・教授

研究者番号：20235633

研究成果の概要（和文）：

この研究プロジェクトは、①葬儀は社会関係に埋め込まれた社会関係資本が動員されることによって実施される、②近代化による社会関係資本の変化は、葬儀の形態を変化させる、③近代化にともなって葬儀の商品化、葬祭業のサービス産業化が進行する、という仮説にもとづいて実施された。上記の仮説を検証するために、国内においては葬祭業の実態を検証し、海外においてはアジア地域と欧米の葬儀についての比較をおこなった。

研究成果の概要（英文）：

This research project was based on hypothesizes as follows. The funeral services could be held by the social capital which is embedded with the social relationships of individuals and family members. Modernization changes the nature of social capital and also the funeral services. Modernization made the funeral services commercialized. We made researches to definite the funeral industries in Japan and comparative studies between the differences of Asia and Western societies about funeral services.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	1,400,000 円	420,000 円	1,820,000 円
2011 年度	900,000 円	270,000 円	1,170,000 円
2012 年度	900,000 円	270,000 円	1,170,000 円
年度			
年度			
総計	3,200,000 円	960,000 円	4,160,000 円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：葬儀、葬祭業、社会関係資本、死の社会学、Funerasie、ベトナム、アメリカ

1. 研究開始当初の背景

葬儀は、故人や家族にとっての社会関係資本の現われであるという前提に本研究は立脚している。しかし葬儀の実施のされ方はそれぞれの地域や社会において多様性をもつ。したがって本研究は社会変動が著しいアジア地域の葬儀を欧米など先進国のそれと比較研究することにより、各社会における社会関係資本がどのように強化され交換されているか、葬儀の商業化がどの程度広まっているのか、などについて実証的に明らかにすることを問題意識とした。

2. 研究の目的

日本を含む先進国を見渡せば、家族の縮小、高齢化、地域社会関係の弱体化が葬儀サービス業という分野を高度化、複雑化させているといえよう。本研究の目的は、こうした知見をより詳細に検証すると同時に、さらに一般化するために調査領域をアジア地域に拡大しようとするものである。西欧社会における葬儀、葬祭業の発展に関する研究蓄積にアジア圏を加えることにより、社会変動が葬送儀礼にもたらす影響がより鮮明に見えるはずである。特に発展途上にある諸国では、社会関係資本のありかたが閉鎖的かつ強力であるが、近年進行しつつある近代化により、社会関係のありかたは大きく変容している。そうした社会において葬儀執行を担う人々がいかなる変化を被っているかを、欧米社会との比較で実証的に探求していく。

3. 研究の方法

(1)日本の葬儀や葬祭業の社会学的研究の深化と、(2)他社会の葬儀との比較研究という二つの側面化から研究を進めてきた。当初予定していた全国葬祭業連合会加盟団体を対象とする数量的調査は、経済産業省が主催した「安心と信頼のある「ライフエンディング・ステージ」の創出に向けた方策を検討する研究会」(座長 嶋根克己)の作業結果と重複したため取りやめた。日本の葬祭業の実態については玉川が中心となり質的な研究を進めた。他社会の葬儀との比較研究は嶋根と黒沢が主に担当した。嶋根はベトナム、ドイツを中心に、黒沢はアメリカ合衆国を中心に長期滞在を含む、調査研究を行った。ベトナムでは都市住民の葬儀についての参与観察調査ならびに聞き取り調査が実施された。ドイツでは森林葬を含む新しい葬送の形について葬祭業者に聞き取り調査を行った。アメリカでは図書館に所蔵されている葬儀業界雑誌をスキヤニングし、データベース化するという作業から、アメリカの葬祭業界の発達過程について研究がなされた。

4. 研究成果

研究の成果は以下の5項目に分類することができる。

(1)当初の目的の一つとして掲げたフランス国立科学研究センター(CNRS)との共同研究プロジェクト「東北アジアにおける葬儀業の展開」<L'expansion de l'industrie funéraire en Asie du Nord-Est, enjeux économiques, spatiaux et religieux>(以下「Funerasie」と略記。プロジェクトリーダー Aveline Natacha/CNRS 研究員・東アジア研究所)は、2010年11月にパリのCNRSで開催されたColloque de cloture du projet ANR Funerasieで共同研究を終えた。その成果は、英語では*Invisible Population; the place of The Dead in East Asian Megacities*. Ed. N. Aveline-Dubach, Lexington Booksとして、フランス語では*La Place des morts dans les megalopoles d'Asie orientale*. ed., Natacha Aveline-Dubach, Les Indes savanteesとして相次いで出版され、研究の成果が世界中に公開された。

ここでの知見は、前産業社会から産業社会を経て、ポスト産業社会に移行するにつれて、家族、親族、近隣住民、職業集団との社会関係が大きく変化し、個人、家族のもつ社会関係資本の質も変化した。こうした動きに並行して葬儀の実施は共同体の手を離れ、金銭によって媒介される葬祭業者によるサービス産業と変貌した、という知見である。

これらは日本の人口動態や家族構成の変化の問題と絡めて、ドイツのハレ大学、フランスのEHESS、ベトナム社会科学院での国際シンポジウムなどで英語、フランス語で研究報告された。また『専修人間科学論集』に掲載された「戦後日本における葬儀と葬祭業の展開」(嶋根・玉川)や“On Transformation of Funeral Practices in Japan Related to the Demographic Transition”は、さらには『日仏社会学年報』掲載された諸論文は、こうした海外での研究報告のベースとなっている。特に葬祭業の産業化・商業化が日本の伝統的な葬儀の様式を大きく変化させていることを主張している。

(2)実証的な比較社会研究での大きな成果は、ベトナム北部における一般の住民の葬儀に参列し、内容をつぶさに観察できたことである。参列した事例については、写真、動画で全体の流れを記録したのち、家族への聞き取り調査を実施した。インタビュー記録はベトナム語で書き起こされたのち、日本語に翻訳された。

ハノイ市域での葬儀は、家族はもちろん近親者、友人、隣人の強力な支援(社会関係資

本)のもとで執行されており、葬祭業者の介在の余地がない。しかし都市生活の高度化は葬祭専門会館の必要性を増し、今後は専門業者の出現が予想される。ハノイ市に多く居住する地方出身者は、都市部と故郷の両方に親密な社会関係を残しており、都市部での告別式ののち、遺体は地方に搬送され、地域住民による野辺送りののち埋葬される。ここには都市と農村に重層化する社会関係資本のありようが見て取れる。

こうした知見をもとに、科研費の交付を受けて2013年度から「近代化と葬儀の変容に関する実証的研究——日本とベトナムの比較を中心として——」というテーマで研究を継続することになった。またベトナム社会科学院社会学研究所との共同研究で、ベトナム南部北部の農村を調査しながら、農村的な社会関係資本の変容について、今後も調査を継続する予定である。

(3) これまでの葬儀研究の蓄積から、経済産業省から「安心と信頼のある「ライフエンディング・ステージ」の創出に向けた方策を検討する研究会」の取りまとめの委嘱を嶋根は受けた。同研究会では、葬祭業の実態を把握するために「一般消費者アンケート」(N=10445)、「業界サーベイアンケート」(N=2796)、「葬祭業者アンケート」(N=426)を実施した。これらは超高齢社会に向かうわが国において、良質なライフエンディング産業が不可欠であることを明らかにした。研究の成果は「安心と信頼のある「ライフエンディング・ステージ」の創出に向けて～新たな「絆」と生活に寄り添う「ライフエンディング産業」の構築～」(経済産業省商務情報政策局サービス産業室)として公表されている。

(4) 『医療白書2012年度版』に掲載するため、ライフエンディング産業の登場の必然性を長期的な人口動態の変動から考察する機会を得た。急激な人口増加がもたらす「人口ボーナス」は経済成長をもたらす、それが葬儀を盛大にし、派手にする。なぜなら老年期死亡者に比較して若年労働力人口の比率が大きいからである。この時期に葬儀の商品化、葬祭業のサービス産業化も進展する。しかし人口停滞期がもたらす「人口オーナス」はもはや経済成長期のようなライフエンドを許さない。夫婦あたりの子供の数が減少し、養老の負担が増すからである。したがって葬儀の形態は第二の変動をもたらす。つまり葬儀の縮小、簡素化である。このアイディアは、ベトナム社会科学院東北アジア研究所から招聘された連続セミナー「日本の経済と文化」で紹介された。

(5) 社会関係資本と葬送儀礼に関する実証的研究はベトナム社会において実施された。専修大学社会知性開発センター社会関係資本研究センターは、ベトナム社会科学院社会

学研究所と共同で、ベトナム北部の農村部と中核都市中心部においてアンケート調査を行った。この調査においては、「社会的統合は、持続的な社会経済的な成長と発展のために非常に重要である。それはある社会を形成するための制度の単なる集合というだけでなく、それらを結びつける接着剤でもある」という世界銀行の指摘に沿って、社会関係資本を社会統合と個人の生活維持のための共有財として定義した。

サンプル数は各100ケースと少量であったがきわめて興味深い知見を得ることができた。これらの社会では役所、警察、病院あるいは軍や政党などの「行政群」への期待度、信頼度はあまり高くない。これにたいして、家族、親戚、友人・知人、近隣の人々への期待度が圧倒的に高い。これらを「親密圏」とよぶことにする。「親密圏」に属する人々の結婚式、葬儀への出席率は極めて高く、ほぼ100%となっている。つまりベトナム社会では家族、親戚に加えて友人・知人そして近隣の人々との密接な社会関係によって葬儀が行われているのである。これは先に述べた参与観察調査の結果とも一致する。これらの知見の一部は嶋根、「ベトナムにおける社会関係資本——都市と農村の2事例の調査レポートから——」『社会関係資本研究論集』に掲載した。現在同研究センターが開催予定の国際シンポジウムに向けて、この論文の英語版を準備している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計6件)

①嶋根克己、ベトナムにおける社会関係資本——都市と農村の2事例の調査レポートから——、社会関係資本研究論集、専修大学社会知性開発センター社会関係資本研究センター、査読無、第4号、2013、119-132

②Katsumi SHIMANE, On Transformation of Funeral Practices in Japan Related to the Demographic Transition, 専修人間科学論集、第2巻/第2号、査読無、2012年 59-64 / 195

③黒沢眞里子、アメリカ葬儀業界誌『キャスケット・アンド・サニーサイド』の研究——その誕生と時代背景——、専修人文論集第90号、査読無、2012年

④K a t s u m i S H I M A N E, La nouvelle culture de la mort au Japon 日仏学会年報第22号、査読無、197-205 / 269

⑤嶋根克己、日本における新しい死の文化、

日仏社会学会年報第 22 号、査読無、2011 年、189-196 / 269

⑥嶋根克己、玉川貴子、戦後日本における葬儀と葬祭業の展開、専修人間科学論集、第 1 巻／第 2 号、査読無、2011 年、93-105 / 185

〔学会発表〕(計 5 件)

①Katsumi SHIMANE, The great disaster and Japanese social security, Social Security for the informal sector(Hanoi, Vietnam Academy of Social Sciences), 2012, Vietnam

② Katsumi SHIMANE, Changes in funeral ceremonies in Japanese rural areas; some comparisons with Vietnamese case, New rural development from social science perspectives(Hanoi, Vietnam Academy of Social sciences),2011, Vietnam

③Katsumi SHIMANE, La nouvelle culture de la mort au Japon, Colloque Franco-Japonais(EHESS, Paris, France), 2011

④ Katsumi SHIMANE, Transformation of Funeral Practices: Collapse of Japanese Tradition?, INTERNATIONALES GRADUIERTENKOLLEG FORMENWANDEL, (Halle University, Germany), 2011

⑤ Katsumi SHIMANE, L'expérience mortuaire des sociétés urbaines nipponnes, des « funérailles traditionnelles » aux « funérailles contemporaines », Colloque de cloture du projet ANR Funerasy, (Paris, CNRS), 2010, France.

〔図書〕(計 5 件)

①Katsumi SHIMANE, L'expérience mortuaire des sociétés urbaines nipponnes, *La Place des morts dans les mégalopoles d'Asie orientale*. ed., Natacha Aveline-Dubach, Les Indes savantes, 2013

②嶋根克己、「無縁社会」における医療と介護のあり方、医療白書 2012 年度版 (日本医療企画) 2012

③Katsumi SHIMANE, The Experience of Death in Japan's Urban Societies *Invisible Population: the place of The Dead in East Asian Megacities*. Ed. N.Aveline-Dubach, Lexington Books 2012, 29p-49p.

④黒沢眞里子、死者のいない墓園—ローレル・ヒルと「アルンハイムの地所」、〈風景〉のアメリカ文化学』ミネルヴァ書房、2011

⑤黒沢眞里子、宇宙時代の移動と定住—地球は島である、人はなぜ移動するのか—移動と定住の文化誌、彩流社、2011

〔その他〕(計 1 件)

ホームページ等

①アメリカの葬儀業界誌(1880s - 1960s)
<http://www.isc.senshu-u.ac.jp/~thb0622/auth.html>

②安心と信頼のある「ライフエンディング・ステージ」の創出に向けて～新たな「絆」と生活に寄り添う「ライフエンディング産業」の構築～報告書の公表
<http://www.meti.go.jp/press/2011/08/20110810002/20110810002.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

嶋根 克己 (SHIMANE KATSUMI)
専修大学・人間科学部・教授
研究者番号：20235633

(2) 研究分担者

黒沢 眞里子 (KUROSAWA MARIKO)
専修大学・人間科学部・教授
研究者番号：40338588

(3) 研究分担者

玉川 貴子 (TAMAGAWA TAKAKO)
名古屋学院大学・経済学部・講師
研究者番号：60424321